

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	伊藤 雪絵
<b>Beneficiaries' Willingness to Pay for Resuscitation Provided by Ambulance Attendants: A Survey Using the Contingent Valuation Approach</b>			
(和 訳) 救急隊員が実施する蘇生処置に対する受益者の支払意思額：仮想市場調査法を用いた調査			

### 論文内容の要旨

日本の消防署が提供する救急搬送サービス（EMS）は、それぞれの市町村が実施主体であり、運用にかかる費用は税金や国からの補助金により賄われている。全ての人、119 コールによって EMS を無料で使用することができ、救急隊員によって初期手当を受けながら病院へ救急搬送される。近年、EMS 利用件数が増加し、運用費や搬送にかかる時間の延長が社会問題となっている。EMS 利用の有料化への議論の基礎的資料とするために、救急隊員が実施する蘇生処置に対する支払意思額を調査する。

2011年11月、医療従事者を除く3,160人の20歳から59歳までの男女に、自分自身が心肺停止（CPA）になったと仮定した時に、次の3つのケースでEMSへの支払意思額（WTP）を調査した。Case A：救急搬送のみ、Case B：救急搬送に加えて心臓マッサージを実施、Case C：救急搬送に加えて心臓マッサージと気管挿管による人工呼吸を実施。年齢階級別、性別、CPR講習の経験別、職業別に、それぞれのケースのWTPの平均値を算出した。

回答者のうち54.3%は、いずれかのケースにおける救急車利用に対する支払意思を示した。各ケースのWTPは、Case A：¥6,696（\$65.0）、Case B：¥16,081（\$156.1）、Case C：¥27,505（\$267.0）であった。40～50歳代の人、男性のWTPが有意に高く、会社員と比較して学生のWTPは有意に低かった。女性はEMSへの料金の支払意思は高いが、WTPは低かった。また、公務員と学生は会社員と比較して、EMSへの料金の支払い意思が有意に低かった。

本研究では、EMSが提供する救命処置に対する最適料金に関する情報を提供しており、日本におけるEMS料金の導入の実現可能性に関する議論に役立つと考える。